

実践⑥ 薩摩川内市立中央図書館

1 はじめに

薩摩川内市は、平成 16 年 10 月に川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村の 1 市 4 町 4 村が合併して誕生した市である。

薩摩半島の北西部に位置し、南は県都鹿児島市といちき串木野市、北は阿久根市に隣接する本土区域と、東シナ海上の甕島区域で構成されている。

一級河川の川内川、ラムサール条約に登録された藺牟田池、国定公園を有する甕島などの豊かな自然環境に恵まれ、可愛山陵、薩摩国分寺などの遺跡や、川内大綱引きや人形浄瑠璃・甕島のトシドンなど、多種多様な伝統文化・芸能と古い歴史を誇りとしている。

中央図書館は旧川内市の市街地にある。開館時間は 8 時 45 分から 21 時迄で夜も利用でき、また、祝日も開館しており、年間開館日数が約 350 日のいつでも利用していただける図書館である。



2 子どもの読書活動に関する取組

(1) 定期的な取組

ア 移動図書館車巡回

市町村合併により市域が大変広くなり離島を有する当市であるが、合併以前から保有している移動図書館車 3 台が、現在も市民の読書活動を支えている。

本土地域では、中央図書館の 2 台の「ドリームかっぱ号」が、巡回を希望される本土の全ての小学校 29 校と幼稚園や保育園、団地等へ巡回している。甕島地域でも、下甕分館の移動図書館車「かのこゆり号」が海を渡り上甕島へも巡回し、小・中学校や地域公民館等へ巡回している。本をたくさん載せ、学校へやってくるバスは、学校図書館とは違った雰囲気ですぐに学校にない本を選ぶのを楽しみに利用する子どもも多い。

また、中央図書館や各分館へ行ったことがない子どもも、移動図書館を知らない子どもはいないぐらい身近な図書館である。



イ 図書館利用者カードプレゼント

小学校での移動図書館利用にあわせ、全ての小学 1 年生へ図書館利用者カードをプレゼントしている。なお、このカードは中央図書館及び八つの図書館分館共通のカードで、どこでも利用できるため大変喜ばれている。

また、通常はひとり 10 冊まで本を借りられるところを、移動図書館を利用する子どもたちは、移動図書館で借りた本とは別に、中央図書館や図書館分館で 10 冊まで借りることができるため、本をたくさん読みたい子どもや保護者に好評である。

ウ おはなしひろば

毎月の第 3 火曜日の午前 10 時から、職員とボランティアによる「おはなしひろば」を開催している。乳幼児が多く、中でも「わらべうた」が好評である。

エ ブックスタート

平成 17 年から市民健康課と共に取り組んでいる。当初は 6 ヶ月検診時に実施していたが、現在は、母子保健推進員が全戸訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」において、絵本や関係資料等をプレゼントしており好評である。

オ おでかけ図書館

年間を通して、児童クラブ、保育園、福祉施設等へ出向いてのお話し会を、移動図書館車での本の貸出や映画上映と組み合わせて実施している。



カ わくわく薩摩川内土曜塾「わくわく図書館」

市教育委員会は、関係団体の協力も得て、児童・生徒が有意義に土曜日を過ごせるよう、毎月第 4 土曜日に「わくわく薩摩土曜塾」事業に取り組んでいる。

中央図書館では、アニメ映画上映やお話会、工作などを実施している。

(2) イベント的な取組

ア 薩摩せんだい図書館フェスタ

イベントを通じて図書館に親しんでいただくとともに、市民の読書活動に触れ読書推進を図ろうと、読書グループによる実演発表、読書感想文コンクール入賞者表彰式、図書館クイズ、お楽しみ工作や本のリサイクル市などを行なっている。



イ 読書感想文コンクール

30 年以上続いている事業であり、市内の小・中学生から作品を募集し、優秀作品の選定・表彰、読書感想文集も発行している。

また、「読書感想文の書き方教室」も開催している。



3 おわりに

2010 年の国民読書年をきっかけに、貸出上限を 5 冊から 10 冊へ引き上げてから、中央図書館や移動図書館では、よりたくさんの本が借りられるようになった。

また、児童フロア内に「子育て支援コーナー」を配置し、幼児連れの親子の利用も増えている。

しかしながら、小学生高学年以上の子どもの利用にはまだまだ課題が多い。

昔と比べ絶大な人気を誇るシリーズ図書が思い浮かばないが、時代の変化と子どもの関心や悩みに応えられるような図書は何かということを常に念頭に置きながら図書を揃え、子どもの読書推進に努めていきたい。